

シリーズ 社会福祉法人の力を地域に

～社会福祉法人の地域における公益的な取組を紹介～

「 法人連絡会としての新たな一歩に向けて 」

令和4年度に県社協が助成した①新たな団体と『つながる』ことを目的とした事業、②既につながりがある団体との連携による新たな『チャレンジ』事業を行った法人連絡会を紹介します。

①新たな団体と『つながる』事業

白山市社会福祉法人連絡会

令和4年9月1日、白山市社会福祉法人連絡会が設立されました。

白山市内にある社会福祉法人が連絡会を通じて『つながる』ことで、地域ニーズや生活課題を把握・共有し、解決に向けて連携・協働するために22法人が参画しました。

連絡会では、定期的に法人職員が集まり、取り組みを検討・企画しています。

令和4年度の取り組みは、福祉健康まつりにて「フードドライブ事業」、小学生に対する車イス介助体験等の「福祉共育事業」を実施しました。

令和5年度では、①フードドライブ②SDGs③情報発信・PRの3つのテーマで企画を検討しており、各テーマに分かれて話し合いを行いました。

各グループでは「各法人行事のコラボ」や「SNSの活用」など多くの意見が聞かれました。

連絡会のニツ木委員長(福寿会)は、「福祉職には、人と人、人とサービスの『つながり』を生む強みがあると思います。そのつながりを広げ、白山市内で多くのつながりを作り、課題解決に取り組んでいきたいです。」とお話されていました。



連絡会で3つのテーマに分かれ、新企画を話し合いました。

②新たな『チャレンジ』事業

珠洲市社会福祉法人連携連絡会

令和2年に設立された珠洲市社会福祉法人連携連絡会は、『新たなチャレンジ』事業として、福祉施設の機能を活かした災害時の「安心避難所」整備にとりかかりました。

「安心避難所」とは、一般避難所へ移動しづらい施設の近隣住民が、立ち寄れる場所をイメージしています。

今年度は法人職員間でイメージを共有し、社会福祉法人として近隣住民に対する災害支援について何ができるか、何を備えるかを、北陸学院大学 田中純一教授をお招きし職員研修会を行いました。

田中教授からは、避難所で想定される状況や被災時に起きる身体・精神・経済的などの住民の変化、また支援者側に起こりやすいストレス症状など様々な側面からご講義いただきました。グループでの話し合いでは、「災害時に、住民も職員もパニックにならないよう安心避難所について事前に住民へ周知・説明が必要だと感じる」「避難所が単に避難する場所ではなく、心地よく過ごせるためのイベント等も行っても良いのではないか」との意見や案も聞かれました。



災害時には、いかに平時の備えが大切かを再確認する場となりました。

田中教授からは「平時にできないことは、非常時にできません。平時から法人間で話し合いを重ね積み上げていくことが大切です。連携・協働することで1+1+1=5になるような化学反応が起こればと思います。」とお言葉をいただきました。

◇◇◇地域における公益的な取組をシリーズで発信していきます。情報をお寄せください。◇◇◇